

人間とペットの共生と社会問題

近年、犬や猫、その他の動物たちをペットとして飼う人が増えている。いわゆる「ペットブーム」である。最近流行りの SNS でも多くの芸能人やアイドル、モデルも自身の SNS を通してマイペットを写真と共に投稿しているのをよく見かけるようになった。近年は SNS や医療など様々な分野において技術が発展しており、便利な社会になりつつあるが、それとともにストレス社会であるとも言われている。そのため、心身ともに健康状態が安定しない多くの人々がペットたちにストレス軽減を求めているのかもしれない。またその一方で、ペットを飼う人が増加したことによるネガティブな面もある。例えば、「飼育放棄」、「動物虐待」、「避妊・去勢手術を行わない飼い主」、「高齢者が病気などにより飼育できなくなる」などである。これらによる動物たちの殺処分は近年減少傾向ではあるものの、動物の殺処分問題は長年にわたって社会問題とされているのだ。

動物の殺処分数は年々減少傾向にある。このまま減少傾向が続けば、各自治体や動物愛護団体が目標としている「殺処分ゼロ」の実現も夢ではないだろう。しかし、今でもペット後進国と言われている日本は、ペット先進国と言われている他国からまだ多くのことを学ぶ必要があるのではないかと思われる。殺処分方法に限らず、「動物愛護管理法」という法律の中でより厳しく法律を定めることで、飼育放棄や動物虐待の事例を減らすことに繋がるのではないかと思われる。近年は、ペットを家族のように大切に考え、育て、生活を共にしている人が非常に多くなってきているように思われる。現在はそんなペットブームに直面しているからこそ、ペットを飼うということや動物に対する考え方について改めて享受するのに丁度良い機会だろう。

本論文では、「人間とペットの共生と社会問題」をテーマとし、これらのような人間とペットに関する社会問題について調査した。今や私たちの心を癒してくれる家族同然の存在であるペットは、これまで私たち人間にどのような影響を与えてきたのだろうか。社会が大きく変化していったことと何か関係があるのだろうか。さらに、ペットを正しく飼育しない人を減らすために、正しいペットの取り扱い方や、国や自治体が取り組むべきことには何があるのだろうか。以上のことについて、先行研究や関連資料を基に本論文で明らかにしていく。